

静岡 沖縄を語る会

第51号
2021年12月4日(土)
清水区西久保 300-12
富田英司
郵貯口座
静岡・沖縄を語る会
00890-1-152770

待ってました!! 沖縄県玉城デニー知事 防衛省辺野古埋め立て設計変更 申請不承認



11月25日(木)沖縄県の玉城知事は、埋め立てが強行されている辺野古の埋め立てについて、公有水面埋立法で設計変更の許認可権をもとに、防衛省沖縄防衛局の設計変更を不承認にしました。

国は本気で作りたいのか?

設計変更の必要性はマヨネーズ状といわれている軟弱地盤に対する必要な「工法の変更」などですが、昨年4月の申請時、工法そのものが全く記載されていませんでした。

結果として沖縄県は三往復の質問と回答を防衛省沖縄防衛局と行いました。

であるにもかかわらず、防衛省側は「70メートル以下には固い地盤」として、軟弱地盤が深さ90メートルにも及んでいるということを見做しています。そうであるならば、ボーリング調査などを行って、対策は70メートルまで十分であることを主張すべきなのにそれらのことが全くありません。つまり建設したいはずの政府の「本気度」が全く伝わっていないのです。

「唯一の解決」と押し付け

また、世界一危険といっている普天間基地について、政府の危険除去の方法が、「辺野古が唯一の解決」と言い張るだけで、沖縄に対する説明が行われていないことです。これは結論の押し付けです。

また、もう一つの当事者である米軍は「代わりのものができないから」と普天間に居座り続け、沖縄だけが被害を受けます。

環境破壊・費用・工期

絶滅危惧種のジュゴンに与える影響に関して調査は不十分。後期の総額は膨らみ続け「兆」の単位にもなります。工期は少なくとも12年かかります。

政府は「法廷闘争」ではなく、沖縄県の判断を受け入れるべきだ。

目次

- 2 高江機動隊派遣
住民請求名古屋高裁逆転勝訴
- 4 連続講座:第3回
沖縄舞踊
- 7 「海をあげる」を読んで
- 8 静岡市民ギャラリーで
横断幕問題顛末記

翌26日の昼、琉球弧写真展の真っ最中でしたが、静岡青葉公園で緊急宣伝。



10月7日(木)

名古屋高裁で逆転勝訴

沖縄高江機動隊派遣住民訴訟



判決骨子

- ① 愛知県警本部長による機動隊の高江派遣専決処分は違法…
110万円の賠償命令
- ② 高江現地の住民テント。車両の撤去は違法の疑いが濃い
- ③ 沖縄県警の援助要請に重要な瑕疵(かし)
- ④ 検問・撮影の違法性・相当性に疑問

上記の判示は、総体として「高江の非暴力の抵抗活動を認め」警察の暴力的弾圧を違法としたといえるでしょう。

事件のおさらい……沖縄北部の米軍北部訓練所のある高江に米軍がオスプレイの使用する(そうは発表していないことも不当です)ヘリパットを建設することに対して地元住民と全国の支援が非暴力の反対行動を行いました。ところが2016年7月以降東京・大阪をはじめとする6都府県から機動隊800人が高江に派遣され、住民らを暴力的に排除し、工事を強行しました。

東京をはじめ7つの自治体で住民が住民監査請求を経て(愛知では2017年5月請求。翌月却下)、地方裁判所で住民訴訟が闘われました。

愛知県でも大村知事を相手に211人の原告が1億3000万円の賠償を求めて裁判を起こしましたが、名古屋地裁は2020年3月住民の請求を退けました。

勝利が勇気と希望を そして力に

池田 一(静岡沖縄を語る会・顧問)

すごいことですよ。高裁での逆転勝訴、それも住民訴訟で、行政(県警)相手に。去る 10 月 7 日名古屋高裁の法廷は逆転勝訴判決に湧きかえった。よし! やった! の声が法廷を揺るがした。

2020 年 3 月 18 日の一審名古屋地裁は県民側の訴えに一顧だにしない屈辱的住民敗訴であつた。

即日控訴から 1 年半、体制を強化し全精力を傾け、精緻にして格調高く、弁論・証言を積み上げ、勝利への道を切り開いた。

とりわけ、原告の皆さんの沖縄への思いを、現地高江と具体的に交流し、連帯し、”沖縄と愛知の私”を毎回の弁論で訴え続け、勝利に結びつけた闘いだつた。

この勝利は愛知の原告はもとより、全国でこの裁判に、沖縄に心を寄せていた多くの
人々の勝利であり、喜びでもある。



支援の一端を担った喜び

この画期的判決に、現地沖縄の地元紙も一面で最大級の賛辞と喜びを伝えた。

沖縄タイムス—5 年後に差した法の光

琉球新報—沖縄訴訟へ追い風期待

「問答無用の国策を押し付け、翁長知事から始まる法廷闘争と無慈悲極まりない司法判断の数々。沖縄大衆抵抗運動への弾圧。そして焦燥感の中でのやっと一条の光明。」11 月 14 日名古屋での勝利集会で山城博治さんは沖縄に対しての余りに理不尽な数々の司法判断の中で慎死された翁長前知事を語ったとき涙で鼻を詰まらせていた。この判決の大きさ、そして沖縄の人たちの喜び、勇気を改めて知った。

静岡沖縄を語る会は連帯といっても、カンパと傍聴くらいしかできなかったけれど、とにかくうれしい。

10 月 21 日愛知県の上告は残念だけれど、全力で関わって繋がっていきたい。

「沖縄の怒りを自分の怒りとして」

琉球舞踊入門

連続講座第3回

9・25岸本美代子さん講演会

山河 進（静岡・沖縄を語る会）

はじめに

連続講座・第3回目の今回は沖縄の文化に学ぶということで「琉球舞踊入門」というテーマでおこないました。講師は新静岡セノバのすぐ近くで琉球料理店「花丁字」を開いていらっしゃる岸本美代子さんです。岸本さんは琉球舞踊に入門して30年以上の経歴の持ち主で、今年の5月にはしずぎんユーフォニアで教師免許披露公演をおこなった方です。



—琉球舞踊をはじめた経緯は？

兄が大阪にいた関係もあって、18才の時大阪に来て学生をしていました。卒業後23才で結婚。30才になったころ弟が結婚することになったのですが、母から「式で『かぎやで風』を踊りなさい!」といわれました。沖縄ではお祝いの席で一番最初に踊られる座開きの踊りです。新郎の親族が踊るしきたりになっていたようです。慌てて大阪で先生を探して、兄嫁と一緒に習いにゆき、結婚式で踊りました。その時、琉球舞踊の奥深さを感じたのです。

夫の転勤の関係で沼津に来てから、国際交流の催しものがありましたが、外国の友だちにあなた沖縄でしょ!あなた何かできないの?」といわれたので、琉球舞踊をやっていたと言いましたら、「じゃあ、やりなさいよ!」と言われて踊りました。そのあと、踊りのグループを作ってあちこちで踊っていましたら、「沖縄舞踊を習いたい!」という人が現われましたので先生に許可を得て、とりあえず自分の知っているものを教えることにしました。教えるためには自分も学ばねばならないと思い、まだ子どもも小・中学生でしたが学校の長期休みになるのを待って大阪の先生の所に習いにゆくようになりました。子どもたちが成長してからは毎月通うこととなり、現在に至っています。教員としての免許も許され、今年5月に披露公演を行うことができました。

沖縄舞踊の流派は沢山ありますが、私たちは柳清（りゅうせい）本流柳清会といいます。柳清本流は古典舞踊の中で埋もれていた「柳」という踊りを復活させた流派で、この踊りを大切にしています。教師には天才肌と努力家タイプとがありますが、私の先生は前者で、私は後者です。できない人の気持ちが分かるのもこの後者のタイプだと思っています

—古宇利島とはどんなところ？

わたしの生まれた古宇利島（こうりじま）は沖縄県北部の国頭郡今帰仁村に属する島です。とても綺麗な海に囲まれた孤島でした。今は廃校となりましたが、当時は小・中合わせて約300人以上の生徒が通っていたと思います。

中学を卒業すると本島の名護高校で寮生活をしました。船は一日5便しかありませんでしたので、月に1・2度家に帰る時には時間をうんと気にしました。家に帰ると「島袋の娘が帰ったそうだ」ということで友だちや近所の人たちが訪ねてくるような具合で、島の人みんなが知り



合いでした。2005年に橋が架かると、島の様子は一変します。島外の人たちがたくさん移住してきましたし、ホテル等のリゾート施設も多く出来て、見知らぬ人ばかりです。

高校を卒業してから大阪に来た時は、人の多いのに驚きました。沢山の家を鳥小屋と間違えて兄に笑われました。淀川を海と間違えてまたまた笑われました。冬には唱歌の「霜焼けお手てがもう痒い」の意味が初めて分かりました。

差別を体験したのも大阪の学生時代でした。男の学友の家に電話しましたが、「島袋です」と名乗ったらお母さんに切られました。次に声音を変えて「鈴木です」と言ったら取り次いでもらえたのです。沖縄人としての初めての差別体験でした。高校の道德の授業で「差別があるよ!」とは聞いてましたが、とても驚きました。

一沖縄料理店を始めたきっかけは？

36才の時に沼津に越して来ましたが、お友だちがやっていた雑貨の店を引き継ぎました。



古宇利大橋

そこで扱っていたアジアの雑貨と沖縄のそれとの間に共通点を見出して興味を持ったからです。のちに場所を街中（沼津駅の北側）に移しましたが、やがて常連さんが増えてお茶やお菓子などを出したところ溜まり場となりました。カフェ（沖縄茶屋）でもやろうかと始めたところそれだけでは終わらず、いつの間にか沖縄料理店になってしまいました。居酒屋もやっていますが、昼間のランチが中心です。静岡の店は6年目です。一度しかない人生、やりたいことはどんどんやって、悔いの残らないものにしたい！
一ウチナンチューとヤマトンチュー？

ウチナンチューは沖縄人、ヤマトンチューはヤマトの人ということでしょうか。沖縄はもともと琉球王国で違う国だったからという区別ですね！子どもの頃によく聞きました。戦争時代のことからもってくるんですね。お爺ちゃんお祖母ちゃんなどは「ヤマトンチューは野蛮人だから…」とよく言っていました。沖縄戦では日本兵の方が（米兵より）ヒドかったと聞きます。

『本土』に行ってもヤマトンチューとは絶対に結婚するんじゃないよ!」そう言われて育ってきました。でも、兵隊さんも上官から命じられてやったことだし、今はあれこれいう気持ちはありません。ウチナンチューもヤマトンチューも同じ人間ですから…。

ただ、以前どこかで飲んでいたら隣のお客か

ら「沖縄は優遇されているくせに基地に反対している」と絡まれた時は頭にきました。店に来たお客に「基地に反対している者はお金をもらってやっているんだ!」と言われた時も同様です(この金銭問題については、会場からもいろんな体験話が出て論議になりました。9月1日の東京地裁でDHC テレビジョン「ニュース女子」による名誉棄損が認められた辛淑玉(シン・ス)さん裁判に見られるように、意図的な力が働いているようだ、という話になりました)。

基地のことについては家族でも親類縁者の間でもいろんな考えがあってなかなか難しい問題です。でも、ヤマトの多くの人たちが心配して心を寄せてくださることに感謝しています。



一質問に答える形で…

琉球舞踊は琉球王朝時代の「古典舞踊」と明治になってからの「雑(そう)踊り」の2つに大別されます。その他に歌舞伎や京劇のような

「組み踊り」と呼ばれる劇もあります。王朝時代は「踊り奉行」と呼ばれる官職の男性が宮廷のお客をもてなすために仕事で踊っていました。明治になってから女性たちの踊り手が出てきます。日本の文化がアジア各地の影響を受けているように、沖縄の舞踊も日本の能(すり足・目線・表情など)や中国・タイの踊りなどアジア各地の影響を受けて発達してきたといえます。

沖縄島の踊りと他の島々の踊りはまた違って、それぞれ面白いです。沖縄舞踊はそうした各地の踊りや各流派の振り付けがそれぞれ影響し合って多彩で豊かな発達を遂げています。そんな関心を持ちながら観ていただけると一層の興味わいてくるのではないかと思います。今日はお招きいただき、本当にありがとうございました。

【拍手!】(質疑討論ではまだまだたくさん話題が出て盛り上がりましたが、紙面の都合で割愛させていただきました。陳謝!)

会費納入とカンパのお礼

琉球弧(沖縄・南西諸島)写真展の案内とともに郵送させてもらった会費納入・カンパの要請に多くの方にご協力いただきました。本当にありがとうございます。

11月26日の段階で、皆さんから21万円以上入金がありました。おかげさまで、写真展を開催できました。もう一息で年度末(22年3月)までのビラまき宣伝やニュースの印刷・発送などの活動を行えます。

ただ、こちらの要請の仕方が悪かったため、21年度の会費未納以外にも、22年度の会費を早めに入れてくださった方もいらっしゃいます。ニュース前号でお知らせしたとおり、総会において22年度からの会費を三千元に値上げさせていただきますので、調整をさせていただきます。

本来このニュース発送とともに各人に具体的にお知らせすべきですが、写真展やデニーク知事的设计変更承認といううれしい誤算もありましたので、年度末になります。

「海をあげる」(上間陽子著作) の紹介

富田英司 (静岡沖縄を語る会・共同代表)

全国の書店員の投票で選ばれる「2021 年ノンフィクション本大賞」を受賞し、今多くのマスコミに取り上げられている。NHK放送でも琉球大学教授・上間陽子さんの「海をあげる」が取り上げられて「生活視線で描く沖縄問題」と紹介されていた。

東京都内で開かれた発表会と授賞式で上間さんは「この賞は私が受けたのではなく、沖縄に対する賞であり、沖縄でしんどい思いで生きている子たちへのはなむけのような賞だと思っています」との挨拶。

「海をあげる」は、上間さんが幼い娘や家族との生活、若年出産した少女らの調査と支援を続ける中で感じたことなどを記した自身初のエッセー集。沖縄の人々の日常に入り込む基地問題や、政治や権力に踏みこまれる状況もつづられている。

基地があるゆえの問題を抱え続ける沖縄。「『海をあげる』は何よりも『アリエルの王国』という章のために書かれた本だといえる。小さな娘のそばで沖縄を生きる痛みを、どうしたら本土の、東京の人たちに伝えることができるのか。本をまとめるとき、私はその1点だけを考えました」と上間さんは述べている。私が上間さんを知ったのは、「裸足で逃げる／沖縄の夜の街の少女たち」(貧困と暴力と隣り合わせで生きる基地の町・沖縄の少女たちの記録)の本でした。

琉球大学の教育学者として「生徒指導」を専門にする上間さんは 2012 年から、キャバクラなどの風俗業で働く沖縄の少女たちの調査を続けてきた。

14 歳でガールズバー、15 歳でキャバクラ…。働き始めた年齢が低く、多くが交際相手との間にできた子どもを十代で出産していたと。

2017 年から 21 年まで「若手出産女性」77 人インタビューしたところ。3 人に 2 人は親やパートナーなど身近な人から暴力を受けていること。妊娠が分かっても病院に行けず、友人の家を転々としたり、住宅団地の階段下で眠っていたり、想像を絶する体験をしていた事を知る。「この少女たちのことが見えていなかった」と上間さんは愕然としたと言う。上間さんたちは、10 月に安全に出産できない若いママたちを守る「民間シェルター」(おにわ)をオープンし運営を続けている。

先の大戦で激戦地となった沖縄は、戦後 27 年間も米軍統治下に置かれ、新しい憲法も女性や子どもを守るための国内法も適用されず、家も仕事も満足になく、生きるために風俗業で働かざるを得ない女性が生まれた。

1972 年の本土復帰後も、米軍基地が地域の発展を阻む形でのしかかり、行政も貧困問題に向き合う余裕すら奪われてきた。今の辺野古新基地建設問題はまさにその象徴だと言える。11 月 25 日、玉城デニー知事は辺野古埋め立て予定海域で見つかった軟弱地盤に対するため沖縄防衛局が申請した「設計変更」を不承認とした。

辺野古基地建設の総工費は約 9300 億円と想定されているが、軟弱地盤の問題があり基地完成は見込めない状況。こうした予算を沖縄県民の生活向上に向けるべきである。



琉球弧(沖縄・南西諸島)写真展裏話

市民ギャラリー横断幕顛末記

今年も11月24日からの開催のために9月7日(火)に使用申請を提出しました。ところが市民ギャラリーから15日(水)に横断幕を写真展会場に掲げないことを要請され、全国各地での展示会などで規制が強化されていることも連想され認めるわけにはいきません。市民ギャラリー側と翌日に話し合いを持つことにしました。会から「権限のある人」の出席を求めたことから、市民ギャラリーを「指定管理施設」として管理している静岡文化振興財団からも職員が出席しました。

強制力のある要請…横断幕不使用は許可条件?

話し合いの中で、写真展そのものに問題はなく、横断幕について掲げないでほしいとの要請があったので、会としては「検討する」としました。そこで合意できたものと判断したのですが、支払いのための振込用紙が来なかったことから24日(金)に市民ギャラリーに電話をしたところ「横断幕はどうなりましたか?」といわれて驚きました。横断幕を掲げないことがいつの間にか許可条件となっていたのでしょうか? 再度の話し合いを要請することとなりました。

背景は市民からのクレーム

結果的には10月25日(月)合計4回目の話し合いが静岡市観光交流文化局・文化振興課長の出席により持たれ、「横断幕使用に問題なし」となりましたが、その話し合いの席で課長は市民ギャラリーで琉球弧の自衛隊配備の掲示について「市民から『なぜやらせる』との意見があった」という趣旨の話がありました。こうしたことで様々な「そんたく」がすぐに働くのが社会の中で珍しくなくなっていますが、そうであればこそ市民の表現の権利擁護に立つのが行政の基本です。

沖縄を語る会事務局長：望月

120

11月26日(金)
静岡新聞朝刊

沖縄現状知って
28日まで写真展
葵区

静岡・沖縄を語る会
による「琉球弧(沖縄
・南西諸島)写真展」
が28日まで、静岡市役
所市民ギャラリーで開
隊の施設建設、沖縄県
本土の名護市で
米軍辺野古新基
地の建設が進む
様子を捉えた写
真などが目を引
く。

同会共同代表
の山崎ひろみさ
ん(左)は「沖縄
県や島々で今何
が起きているか
伝えたい。多く
の人に覚えてら
い、一緒に考え
てほしい」と話
した。

沖縄の現状を米軍や自衛隊の施設
建設の視点から伝える写真展。静
岡市役所市民ギャラリー

美しい海や観光地が
ある沖縄本島や島々で
自衛隊や米軍基地の施
設が増えている事実を
静岡県民に伝えること
が狙い。東アジア共同
体研究所や地元住民か
らの提供写真やイラスト、地図、説明文など
を組み合わせて分かり
やすく解説している。

宮古島や石垣島で自衛
隊の施設建設、沖縄県
本土の名護市で
米軍辺野古新基
地の建設が進む
様子を捉えた写
真などが目を引
く。